

電信官

収し徑ヲ申者、特許狀ニ載え起工ハ已ニ
 開始セラルヲ以テ現案西北鉄道ノ事
 業ハ甲者より更ニ同一代價ヲ以テ乙者
 ニ移スコトス依テ乙者、本約満期ノ日
 ヲ向テ四年以内ニ京城松都間ノ事業
 ヲ竣工シ又満期ノ日ヨリ曉テ五十年内
 ニ京義間ノ事業ヲ竣工スベシト改メ其
 他、元山鐵道ニ關シ我權利ヲ保留ス
 ルコト、大韓鐵道唐社監督及ヒ會計
 各一名、日本唐人ヲ雇入ルシムコト、同唐

外務省

社、有ル特許狀其他、公文書ヲ我ニ
 保管スコト、及ヒ本契約ノ失儀ハ日本
 文ヲ以テ解スルコトノ條項ヲ加ムル外唐
 南ノ方ト大体同シ

右満期、上先名、昂金四十万円唐社経
 費トシテ五十年間毎年一万円及皇室費
 トシテ同業迄毎年五万円、借入ヲ申シ
 モ右ハ啓略証勅ヲ得ル条件ナリシヲ以テ
 本使ハ此際昂金拾五万円皇室上納金
 及唐社経費、事業迄毎年一万円ニテ

相詰ヲ議ニ付キ右ニ對シ可否は審判
ヲ乞フ尤右ノ決定ノ上京城松都間
工事ヲ引續キ進行シ又既ニ治工老土
工ヲ引受ルルノ相當金額ヲ屬社ニ貸付
クン決ニナカハラス、庫契約ハ西北鐵道
局ノ承諾ヲ經ルコト必要ニ因テ下、博
其運ビ付キ兼ヌト思考スル付事實
ニ工事ヲ進行セシメタル上後ノ時程ニ於テ
之ヲ遂クルノ外ナシ

外務省

以上我ニ充分確實ニ權利ヲ得ルニ至
ラステ多額ノ資金ヲ得、結果ハ我
對露政策ニ於テ根本的ニ對露政策
ノ定ムルに至リ以上目下ノ處右ノ方法ハ
我ニ有利ニ對スル係ヲ確シ得ル
唯一ノ方法ナリ

1-1628

六六九

明治

珍田

レ

本紙

電送第三二號
明治三十八年八月八日

主幹

小おと

明治三十九年

振部能老ノ件ハ當高橋中ナリ
ホニ付たノ法上ハ未だ改メシ

一、電二六二号ハ、該般ノ工役ハ諸君

ニ種多ク決意ストアリ又秋方ト令社

トノ旨ノ契、約ニモ期限ハ、即ち後二年

御中

外務省

トアリテ、並ニ工事ニ有テスル必要ナキカ

リ、電二七〇号ノ意味ト存心セズ、同

印、後、並ニ工事ハ、有テスルニ、ト、實際困難

ナルニ付、右ハ、並ニ、延期ハ、人ノ、途ナキヤ

明治三十九年八月八日

二、九、案ノ、土、工、ノ、受、入、費、ハ、凡、ソ、先、何、リ

要、シ、且、何、種、止、信、ハ、文、出、ノ、要、アリヤ

三、竣、工、期、限、ニ、テ、年、ハ、意、除、ナ、カ、ナ、リヤ

MT 1.7.3.11

365

MT 1.7.3.11

364

1-1628

四西北館元局表ト令出ト令同仁裁
素考湖之承者、仲たや分長、斯
契約ヲ為スノ批執アルモト認メテ又
ナキヤ

將又一時貸金に新あ追ナハ供合、
右件多き得ぬ性質、批執、計ニテ
之為十五万金以上、論議式多
は、中七条、松部一追、計ニ十五万金以上

外務省

又又出スルコト、計、年、計、金、
約、金、ト、あ、金、内、金、金、後、
タ、金、中、金、金、アリ、タ、

1-1628

0215

六七

大臣

電信課長

總務長官

主管

電受第五〇四 號 明治廿六年八月廿一日 午後三時五十分 發

小村外務大臣 林公使

才を於て
布衣、才を於て
費トシテ、貸金、契約、油、日、五
お因、松部、少懐、此工、費、七、五、千、四
少懐、義、起、工、費、七、五、千、四、トスル

外務省

コト、男、同意、セ、メ、リ、又、決、定、局、ト、存、社
ト、合同、ニ、在、る、長、松、及、友、部、ノ、ミ、ミ、西
北、決、定、局、印、章、ナ、キ、ヲ、以、て、更、ニ、局、印、及
存、社、ノ、印、ヲ、モ、押、サ、シ、メ、タ、リ、決、定、局、同、ウ、李
東、細、カ、関、カ、セ、ル、ヤ、否、ヤ、ハ、確、カ、ル、ニ、困、難、ナ、リ、只
存、社、側、ノ、言、フ、所、ニ、テ、ハ、多、少、ノ、異、係、ヲ、有、シ、少
ナ、ク、ト、モ、黙、認、シ、得、ル、ハ、タ、ル、カ、
松、部、ニ、該、工、期、限、ハ、三、十、ケ、月、ト、シ、天、災、不、可
抗、力、ノ、外、雨、雪、ニ、依、テ、休、工、モ、各、期、限、外、ト、ス、ル
コト、ハ、取、メ、タ、リ
右、契、約、ノ、油、カ、ラ、終、了、ス、ル、片、ハ、他、方、害、ニ、テ、存、社
同、ウ、取、リ、返、ハ、サ、ル、ニ、至、ル、ヘ、シ、ト、テ、存、社、ハ、油、カ、ヲ、急
ニ、店、リ

MT 1.7.3.11 373

MT 1.7.3.11 372

1-1628

る
る

第百三十三号

立紳

る

大

あおきん

光電二七七号
市電中出、通る足立、電令セリ

外務省

MT 1.7.3.11 374

1-1628

0219

大臣

總務長官

電信課長

主管

珍田

座
金

電受第五 一三號 明治三二年九月二日 午後二時五十分 著發

小村外務大臣 林正使

本友ノ弟ニセハ号電被對可成
連ニ電報シテ又電被對可成
ベクハ社トシテ切方ニ對シ西
候及是認シハニハ試ニ先方

外務省

カハ議シタニセハ方ニ願リテ之ヲ拒ミ
けり尚ホシタニセハ方ニ願リテ之ヲ拒ミ
生ハシメニセハ方ニ願リテ之ヲ拒ミ

MT 1.7.3.11 376

MT 1.7.3.11 375

1-1628

0220

本
授

明治
同 年 月 日
起草
日發遣

主任

庄

ノ

林分使

少佐

才百三十三號

電送
九月三日
才百三十三號

杉即鐵道之関を越え、其の北にあり、

お鉄道より標高を、名義人トせん、

外務省

常陸守、此所、都々、早急通

電アリ

MT 1.7.3.11

385

MT 1.7.3.11

384

1-1628

大臣

奉

寫

手換中、テ多分

十九日
廿

大臣

大臣</

附随

會社創立費ニ關スル附随契約

大韓鐵道會社及資本主細戸得哉明治三十九年九月八日相互間ニ
訂立セタル京義鐵道布設ニ關スル契約ニ附隨シ會社創立費ニ關ス
ル左ノ契約ヲ訂立ス

第一條 本會社ハ創立費トシテ金拾五萬圓ヲ本契約調印ノ日
ニ資本主ヨリ借入シ又松都平壤間及平壤義州間ノ工事着手ノ
日ニ松都各七萬五千圓ヲ借入ル事

第二條 前條記載ノ金款總計松都萬圓ノ外ハ本會社ハ會社
經營トシテ一切借入金ヲササハル事

第三條 創立費借入金款ニ對スル利息及償還方法ハ條ノ原契
約第三條ニ依ル

大日本明治三十九年九月八日

資本主

細戸得哉

大韓光武七年九月八日

大韓鐵道會社長鄭致堉

MT 1.7.3.11 443

MT 1.7.3.11 442

附隨約款

大韓鐵道會社及資本貸主 網戶得裁也光武七年九月八日
 光武七年九月八日 互取同訂立 意 第義鐵道會社 契約附隨
 隨之印更引左開各項 協約者

第一條 西北鐵道局以外現時進工 現京城附近の土工幾
 哩 會社以外 西北鐵道局の協約 亦 此 協約 價額 且
 全部讓受之 且 追後更引 一價額 且 此 資本主の 特
 讓者

第二條 本會社以外 既已本國政府の 特許 且 京城
 元山間鐵道 是 輸送 且 此 鐵道 是 本會社 債權 歸結 且 時
 此 本會社 以外 資本主 亦 協約 且 亦 互取 同 契約 亦 無 之
 其 是 亦 三 者 以外 是 引 交渉 勿 言 事

第三條 此附隨約款 是 互取 同 契約 且 境 遇 引 對 中 也

責任 是 原 契約 中 亦 是 依 之 非 是 也

大韓光武七年九月八日

全和

大韓鐵道會社長鄭顯哲 印

大日本光武七年九月八日

資本主 網戶得裁 印

MT 1.7.3.11 448

MT 1.7.3.11 449

會社創立費則

大韓鐵道公社決議案

本公社外債或鐵道敷設事務等擴張を以て爲す
非資本金日債限額内任員募集に便せしむる爲に
是を本公社外債に提出するに決意す

光緒七年八月三十一日

社員鄭欽哲

朴瑛淙

洪肯燮

秦學祐

尹喜炳

池祥龍

金浩業

大韓鐵道
公社之章

MT 1.7.3.11

451

1-1628

0265

請願書副本

